

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	生物学 22d101		担当教員 (実務経験)	松田 理恵 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 16時間
授業目的	解剖学、生理学・組織発生学などを理解するための生物学的な基礎知識を習得する。				
到達目標	細胞の構造と機能、物質代謝とエネルギー代謝、ホメオスタシス、生殖発生と分化、遺伝と変異などが述べることができる。				
テキスト・ 参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版) 				
評価方法・ 評価基準		評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	①定期試験70% ②小テスト15% ③提出物(課題)等15%		
	レポート	%			
	小テスト	15%			
	提出物	15%			
その他	%				
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ①基本的な事項について教科書・図書を参考にしながら、歯科衛生士に必要と思われる関連事項までに高める授業を行う。単元ごとに小テストを実施する。 ②提出物は遅れず提出すること。 				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	生物学と人間	生物学とは		
	2	生物学の成り立ち1	生命の単位、細胞の構造と機能		
	3	生物学の成り立ち2	組織と器官		
	4	生物体の働き	物質代謝とエネルギー代謝		
	5	生物体の調整	神経		
	6	生命の連続性1	ホルモン、ホメオスタシス		
	7	生命の連続性2	発生と分化		
	8	生命の連続性3	免疫		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	化学 22d102	担当教員 (実務経験)	山内 芳子 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	生化学、栄養学、薬理学などの学問を理解するために必要な基礎知識の習得				
到達目標	基本的用語、物質の構造や性質、塩基・酸化・還元などの化学的な計算を理解し、無機・有機化学の基本を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・最新歯科衛生士教本「化学」(医歯薬出版) ・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90%	①定期試験90% ②レポート10%		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の 留意事項	①歯科衛生士に必要と思われる内容を中心に授業を行う。単元ごとに確認テストを行う。②授業のボリュームが多いので復習をしっかりとすること。③板書した内容は、必ずノートに記載する。④電卓を使用する。(携帯も可)				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	物質の構造	元素、分子量計算、周期表		
	2	粒子の結合	イオン結合、共有結合、金属結合		
	3	物質の状態	固体・液体・気体、コロイド		
	4	物質質量と濃度	原子量、分子量、濃度計算		
	5	化学反応	酸・塩基、酸化還元反応、pH計算		
	6	有機化学物	炭化水素の構造、官能基の種類		
	7	生体関連物質	糖類、脂質、タンパク質		
	8	まとめ	科目の総括		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	歯科英語 22d103		担当教員 (実務経験)	杉田 昭子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として歯科診療に従事し、当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	歯科関係の英語のテキストにより、一般的な英会話能力ならびに歯科医院において実用的な英会話能力を身に付けることを目的とする。				
到達目標	英語で書かれた説明書や簡単な歯科医学文献を理解できるほか、特に英語によるコミュニケーションの必要な患者との最低限の会話を実践できる。				
テキスト・ 参考図書等	・配付プリント ・参考図書:最新歯科衛生士教本「歯科英語」(医歯薬出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	55%	①試験55% ②提出物30% ③参加態度15%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
その他	15%				
履修上の 留意事項	①文法的なことよりも、全員で教科書を音読、あるいは役割練習で英語を話すことより英語に慣れることに重点をおく。②会話の練習と歯科英単語の習得を中心に予定である。恥ずかしがらずにできるだけ大きな声で教科書を音読すること。③1回目を除き、できるだけ毎回簡単な歯科英単語の試験を行う。④主に教科書のPart2の単語も授業時間内に学習する時間を取っているので、確実に習得すること。⑤機会があれば日本映画の英語版を利用してリスニング練習に役立てること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	Introduction 歯科英単語、Unit 1	自己紹介文の作成① Making an Appointment by Telephone		
	2	歯科英単語、Unit 2	自己紹介文の作成② Handling Calls at Reception		
	3	歯科英単語、Unit 3	自己紹介(毎回数人毎にpresentationを行う) Emergency Appointment		
	4	歯科英単語、Unit 4	Asking the Patient to Describe Symptoms		
	5	歯科英単語、Unit 5	Asking the Medical History		
	6	歯科英単語、Unit 6	Consultation		
	7	歯科英単語、Unit 7	Informed Consent I		
	8	歯科英単語、Unit 8	Informed Consent II		
	9	歯科英単語、Unit 9	Tooth Brushing Instructions		
	10	クリニックでのフレーズ、Unit 10	Why Do I Need a Cleaning?		
	11	クリニックでのフレーズ、Unit 11	Sealant		
	12	クリニックでのフレーズ、Unit 12	Fluoride Treatment		
	13	クリニックでのフレーズ、Unit 13	Instruction after tooth extraction		
	14	歯式で英語で表現、Unit 14	Periodontal Disease		
15	歯科英単語、Unit 15 まとめ	After Treatment			

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

歯科衛生学科

授業科目 (科目ID)	情報処理実習 22d104		担当教員 (実務経験)	赤尾 みどり 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 情報処理系企業に勤務し、システム開発や顧客へのインストラクションに従事し、当該科目の教育を行う	
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な情報リテラシーを身につけることを目的とし、コンピュータ操作法の基礎を学ぶ。また、ワープロ、表計算ソフトウェア、パワーポイントなどを活用したビジネス情報の処理ができる。パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。				
到達目標	①ワード・ドキュメントを使ってレポートが作成できる。②エクセル・スプレッドシートを使って表や図が作成できる。③パワーポイント・スライドを使ってスライドが作成できる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じてプリントを配付				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①各試験の平均点50% ②レポート点(提出物状況)50%		
	レポート	50%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	①授業はPC室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習(実習がメイン)、高校の必修教科「情報」で学ぶWindowsの基本操作(日本語入力、フォルダの新規作成、ファイルの移動・コピー、開く・閉じる等)は、既習であることを前提とする。③積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	情報処理の基礎	Windowsとインターネットの基礎(情報セキュア・著作権等)、メールの送受信とフォルダの作成、Googleアプリ・Webclass等の使い方		
	2	文書化の基本Ⅰ	効率的な文字入力と変換、文字装飾		
	3	文書化の基本Ⅱ	作表1、画像・図形の利用1		
	4	文書化の基本Ⅲ	作表2、画像・図形の利用2		
	5	文書化の基本Ⅳ	練習問題		
	6	表計算ソフトの活用Ⅰ	データ入力とワークシートの編集		
	7	表計算ソフトの活用Ⅱ	四則演算と関数の基礎、作表と編集		
	8	表計算ソフトの活用Ⅲ	グラフ表現の要点とグラフ作成		
	9	表計算ソフトの活用Ⅳ	練習問題		
	10	文書作成ソフトと表計算ソフトの連携	総復習、総合練習問題		
	11	プレゼンテーションソフトの活用Ⅰ	スライド編集、文字装飾と図形の活用		
	12	プレゼンテーションソフトの活用Ⅱ	特殊効果(グラフ、スマートアートの活用、アニメーション効果)		
	13	プレゼンテーションソフトの活用Ⅲ	表・ワードアートの挿入、テーマの設定		
	14	プレゼンテーションソフトの活用Ⅳ	資料作成とプレゼンテーションの基礎知識		
15	プレゼンテーションソフトの活用Ⅴ	総合演習、プレゼンテーション			

授業科目 (科目ID)	表現基礎 22d105	担当教員 (実務経験)	片野 弘一 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	社会人生活を支える基本的な理解力と判断力、そして自己実現に向けた表現力を身につける。				
到達目標	「表現する力」を学ぶことで、自分の行動の意味や考えを他者に説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	漢字検定の参考書				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①定期試験50% ②レポート点30% ③出席点20%		
	レポート	30%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	20%				
履修上の 留意事項	①講義、示説、演習形式で行う。 ②演習は1人、3～6人グループごとに話し合う ③忘れ物はしない。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	授業方針 ・表現の基礎	2人一組で、相手のことを取材して自己紹介風に口頭で発表。取材を通して得た様々な情報を取捨選択して、如何に的確に「相手」を表現できるか？を問う。		
	2	原稿用紙の使い方 ・要約の基礎	授業で使う原稿用紙の基本的な使い方。新聞記事の要約と、記事に対する見解をグループで原稿用紙にまとめ発表。		
	3	漢字の使い方学習 ・ニュース原稿の作成(伝わる文章)	事件事故の箇条書き的な情報から、ニュース原稿を仕上げる。5W1H(+2F)、そして短く的確に…という文章の基本を学ぶ。		
	4	論文の要約(表現力の的確化)	新聞記事の要約から一段深化させ、「意図を持った文章」を要約。文章を如何に効率よく、的確に仕上げるか…その訓練。		
	5	感想文作成と相互評価(主旨の伝達)	短い小説などの感想文を作成。それをグループ内で相互評価することで、的確な構成力を学ぶ。		
	6	漢字の使い方学習 ・歌詞に込められたドラマを文章化	歌詞の表現やイメージ的展開から、背景のドラマを読み取り文章化。考えを文章化し伝える訓練。		
	7	街中の意外な風景を文章化(構成力)	各グループで街を散策し、テーマに則した光景を見つけて描写。日常的な風景の中から意味を見出し、それを論理的に考えてゆく訓練。		
	8	漢字の使い方学習 ・「意外な風景」の文章を発表、相互評価	各々の文章が思惑通り「伝わる」のか、発表を通して表現力を学ぶ。		
	9	レジュメの作成(文章作成の基礎)	グループにテーマを与え、それをレジュメ風にまとめる。その過程で、自分たちの考えの経路を整理		
	10	漢字の使い方学習 ・レジュメを文章化(思考の整理)	9回目の授業で作成したレジュメに沿って文章を構成。文章の作成に当たって、何がポイントとなるのか？把握		
	11	社説など「意見」を把握する(理解力の取得)	文章が訴える意味を把握。その文章に対する同意や反論を、グループで討論する。		
	12	個人の文章力を育成	これまでグループ単位で文章をまとめてきたがこの回は、テーマに対して個人が文章化。その力を問う。		
	13	漢字の使い方学習 ・情報の整理と展開	前期の総括PART1。情報を収集し整理してレジュメを作成。		
	14	レジュメに基づく文章の作成、発表(論理的思考)	情報を取捨選択し、論理的に筋の通った文章を作成しグループ毎に発表。さらに相互評価で熟成度を考察。		
15	前期のまとめ(総括)	新聞の特集記事を取りあげ、概要をまとめること、および意見を展開。レジュメの方法論が活かされているか、また起承転結の構成となっているか？			

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	前期授業の総括	文章を書く基本は ①起承転結 ②5W1H(+2F)
	17	オーラル・プレゼンテーション①	教室に在る機材や写真、資料を駆使して「発表」を補完 一週目はテーマの選択、補完媒体の選択など
	18	オーラル・プレゼンテーション②	二週目は、計画案に基づくスタンバイ (文章の作成、補完資料を精査、発表方法など)。
	19	オーラル・プレゼンテーション③	三週目は「発表」。所謂「オーラル・プレゼンテーション」を質疑応答を交え展開。 授業のポイントは「表現の実践」
	20	街中に見る素朴な歴史を文章化(論理的な文章構成)	近隣を取材、テーマに沿った題材を持ち帰りグループで400字程度の文章化。 日常的な風景に意味を見出し、それを論理的に考えてゆく訓練。
	21	漢字の使い方学習 ・前回作成の文章を発表(的確な表現)	相手に伝わる文章になっているのかどうか？発表から検証。 文章による伝達の実践的訓練。
	22	一足早い「流行語大賞」選出(文章の内容考察)	今年の流行語をピックアップ、その選出理由を文章化。 第三者に伝えるための「工夫した」文章を考える。
	23	発表「流行語大賞」(口頭での表現力)	前回作成した文章を(グループ毎に)発表。 相互評価によって、印象的な文章作りを学ぶ。
	24	論文へのアプローチ①	文字による表現の最高到達点である「論文」に触れる 第一週は、読み取るためのレジュメ化
	25	論文へのアプローチ②	レジュメの文章化。
	26	論文へのアプローチ③	前週に作成した文章をグループで相互発表および評価と推敲。論文を書く訓練 は、「表現」の本質に触れる機会。
	27	漢字の使い方 総括	漢検三級、および四級程度の漢字力を学ぶ。
	28	2022年大予想①(調査結果の文章への反映)	新聞記事やそれぞれの発想をベースに「大予想ベスト5」を提示。 表現と密接な関係にある「調査」の意味を印象付ける。
	29	2022年大予想②(論理的な表現力の取得)	前週にまとめた「大予想」の結果を発表。 最終的に、口頭での表現力を試す。
	30	総括	新聞の特集記事に対し、概要をまとめ意見を展開。 レジュメが活かされているか？起承転結で構成されているか？

授業科目 (科目ID)	解剖学 22d106		担当教員 (実務経験)	杉田 昭子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として歯科診療に従事、当該科目(骨格系・筋系・循環器系・神経系・細胞組織系)の教育を行う。 別紙1参照		
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	各器官の構造と機能を学ぶことにより、後で学ぶ病理学や歯科医学の臨床の基礎を築く。					
到達目標	正常な人体の肉眼的構造について習得し、その機能を述べることができる。					
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版)					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③出席点10%			
	レポート	10%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	10%				
履修上の留意事項	①教科書を中心に、スライド、プリント、模型などを用いて講義を行う。②要点はすべて板書するので、ノートをとること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	解剖標本見学 (杉田)	札幌医科大学 解剖標本館見学			
	2	解剖学で学ぶこと、細胞 (杉田)	解剖学の種類、人体の区部、解剖学用語、細胞の構造と機能			
	3	細胞と組織 (杉田)	細胞の一生、細胞分裂、上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織			
	4	発生 (杉田)	減数分裂、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育			
	5	骨格系 (杉田)	骨の構造、連結、発生、骨格の名称			
	6	筋系 (杉田)	筋の形状と分類、骨格筋の名称			
	7	消化器系① (杉田)	消化器の構造、口腔、咽頭、食道、胃			
	8	消化器系② (杉田)	小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜			
	9	循環器系① (杉田)	血管の構造、心臓、動脈系			
	10	循環器系② (杉田)	静脈系、胎児の循環系、リンパ系			
	11	神経系 (杉田)	神経系の構成、中枢神経系、末梢神経系			
	12	呼吸器系 (杉田)	呼吸器の構成、咽頭、喉頭、肺、気管、気管支			
	13	感覚器系 (松田)	外皮、視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器			
	14	泌尿器系 (杉田)	腎臓、尿管、膀胱、尿道			
15	内分泌／生殖 (杉田)	内分泌器官とホルモン、生殖器				

授業科目 (科目ID)	組織・発生学・口腔解剖学・歯牙解剖学 22d107	担当教員 (実務経験)	杉田 昭子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として歯科診療に従事、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	口腔、歯の発生や形成過程、さらに構造や形態を理解することにより、今後の臨床歯科学を学ぶ基礎を築く。				
到達目標	顔面、口腔、歯の形成過程、歯と歯周組織の微細構造を述べることができる。また口腔およびその周辺の構造を述べるができる。歯の形態を理解し、歯種を鑑別できるようにする。				
テキスト・参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③出席点10%		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	10%				
履修上の留意事項	①教科書を中心に、スライド、プリント、模型などを用いて講義を行う。②要点はすべて板書するので、ノートをとること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	歯の解剖学的総論①	歯の定義、特徴、構造、歯の種類		
	2	歯の解剖学的総論②	歯の記号、方向用語、ミュールライターの三徴候		
	3	永久歯①	中切歯、側切歯		
	4	永久歯②	犬歯		
	5	永久歯③	小臼歯		
	6	永久歯④	上顎大臼歯		
	7	永久歯⑤	下顎大臼歯		
	8	乳歯	乳歯の特徴、乳切歯、乳犬歯、乳臼歯		
	9	歯の異常	歯数、大きさ、歯冠、歯根、萌出の異常		
	10	歯列と咬合	咬合湾曲、空隙、咬合の型		
	11	歯の発生	歯堤、蕾状期、帽状期、鐘状期、歯の萌出		
	12	エナメル質	エナメル小柱、レチウス条、シュレーゲル状		
	13	象牙質／歯髄	象牙細管、エブネル線、オーエンの外形線、歯髄の細胞成分、血管、神経		
	14	セメント室／歯根膜	セメント室の分類、細胞と繊維、歯根膜の機能、歯根膜の細胞と繊維		
15	歯槽骨／歯肉	固有歯槽骨、支持歯槽骨、歯肉の区分と歯槽粘膜、歯肉上皮、歯肉固有層			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	顔面の発生	鰓弓、顔面・口唇・口蓋・舌・腺の形成
	17	口腔①	口腔とその周囲の表面、口腔前庭、固有口腔
	18	口腔②	口蓋、舌
	19	咽頭と喉頭	咽頭、喉頭の構造
	20	頭蓋骨①	頭蓋を構成する骨
	21	頭蓋骨②	泉門、縫合
	22	頭蓋骨③	内頭蓋底、外頭蓋底
	23	口腔を構成する骨①	上顎骨、口蓋骨
	24	口腔を構成する骨②	下顎骨
	25	咀嚼筋、顔面筋	咀嚼筋(起始と停止、作用)、顔面筋(表情筋)
	26	頸部の筋、顎関節	舌骨上筋群、舌骨化筋群、顎関節を構成する骨、関節円板、靭帯、下顎運動
	27	口腔周囲の脈管①	総頸動脈、外頸動脈、顔面動脈
	28	口腔周囲の脈管②	顎動脈、内頸静脈、リンパ節、扁桃
	29	神経	脳神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経)
30	唾液腺	大唾液腺、小唾液腺	

授業科目 (科目ID)	歯型彫刻実習 22d108		担当教員 (実務経験)	佐々木 英世 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科技工士として業務に従事し、当該科目の教育を行う。別紙1参照	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	上顎中切歯、上顎犬歯、上顎第一小臼歯、下顎第二小臼歯、上顎第一大臼歯、下顎第一大臼歯の歯牙形態の特徴を理解する。				
到達目標	スケッチ、彫刻(石膏柱使用)を通し、各歯牙の解剖学的特徴を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版) ・プリント ・切り出しナイフ ・彫刻刀 ・見本模型 ・段階模型				
評価方法・ 評価基準		評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	①レポート10% ②提出物80%※完成度と期限 ③出席点10%		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	80%			
その他	10%				
履修上の 留意事項	①実習を中心とした授業。②該当歯牙の形態の特徴を確認し、スケッチの描き方、彫刻の方法をプリント、見本模型、板書、デモなどで示す。 ③単に描く、彫る技術にこだわるのではなく、いかに歯牙の特徴を捉えているかが重要である事を強調する。 ④忘れ物があると作業が遅れるので留意すること。(貸出しは行わない)⑤補習は、(水)以外はしない。⑥刃物の取り扱い、後始末には十分注意すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	スケッチの説明、石膏柱作成 (佐々木)	上顎中切歯のスケッチ、石膏柱作成		
	2	上顎中切歯のスケッチ、彫刻 (佐々木)	上顎中切歯のスケッチ完成、彫刻		
	3	上顎中切歯の彫刻 (佐々木)	上顎中切歯の彫刻完成		
	4	上顎犬歯のスケッチ (田中)	上顎犬歯のスケッチ完成、石膏柱作成		
	5	上顎犬歯の彫刻 (田中)	上顎犬歯の彫刻		
	6	上顎犬歯の彫刻 (佐々木)	上顎犬歯の彫刻完成、石膏柱作成		
	7	上顎第一小臼歯のスケッチ、彫刻 (佐々木)	上顎第一小臼歯のスケッチ完成、彫刻		
	8	上顎第一小臼歯の彫刻 (佐々木)	上顎第一小臼歯の彫刻完成、石膏柱作成		
	9	下顎第二小臼歯のスケッチ、彫刻 (田中)	下顎第二小臼歯のスケッチ完成、彫刻		
	10	下顎第二小臼歯の彫刻 (田中)	下顎第二小臼歯の彫刻完成		
	11	上顎第一大臼歯のスケッチ、彫刻 (佐々木)	上顎第一大臼歯のスケッチ完成、彫刻		
	12	上顎第一大臼歯の彫刻 (佐々木)	上顎第一大臼歯の彫刻完成		
	13	下顎第一大臼歯のスケッチ、彫刻 (田中)	下顎第一大臼歯のスケッチ完成、彫刻		
	14	下顎第一大臼歯の彫刻 (田中)	下顎第一大臼歯の彫刻完成		
15	総合演習 (田中)	歯牙並べ、各歯牙の特徴を把握しているかを確認			

授業科目 (科目ID)	生理学 22d109		担当教員 (実務経験)	佃 宣和 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科医師として、口腔生理をとおして歯科治療に従事しており、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	全身及び口腔の正常な機能を理解するための基礎知識を習得すること。					
到達目標	細胞の構造と機能、筋と運動、神経、消化、循環、呼吸、感覚、内分泌などの役割について述べるができる。歯と歯周組織の機能、咬合と顎運動、嚥下、嘔吐、味覚、唾液、発声の機能について述べるができる。					
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」(医歯薬出版) ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」(医歯薬出版) 					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート10% ③小テスト10%			
	レポート	10%				
	小テスト	10%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	教科書を中心に、スライド、プリントを用いて講義を行う。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	生理学とは、細胞の構造と機能	生理学で学ぶこと、細胞の構造と基本的生理機能			
	2	筋と運動、神経系 ①	筋の構造と収縮機序、運動ニューロン、反射と随意運動			
	3	消化・吸収	消化のメカニズム、消化管運動と調節機構			
	4	循環	血管の機能、血液の成分と働き、心臓の収縮の仕組みと心電図			
	5	呼吸	呼吸運動、ガス交換の仕組み、呼吸の調節			
	6	感覚、神経系 ②	感覚の種類、体性・内臓感覚、神経系の主な伝導路			
	7	体温、内分泌	体熱の産生と体温調節、内分泌器官の種類、ホルモンの働き			
	8	歯と口腔の感覚	歯の圧覚、位置感覚、歯髄の感覚、口腔粘膜の感覚			
	9	味覚と嗅覚	味覚の役割、味覚の感受性、味蕾、味覚の神経機構、嗅覚の役割、嗅覚の神経機構			
	10	咬合と咀嚼 ①	咬合、下顎位/下顎運動、限界運動			
	11	咬合と咀嚼 ②	顎反射、咀嚼、咀嚼能力、吸嚥			
	12	嚥下と嘔吐	摂食・嚥下の流れ、嚥下の神経機構、嘔吐の機序、嘔吐の神経機構			
	13	発声	発声機構、声の生成、言語音の形成			
	14	唾液	唾液の分泌機構、唾液の性状・成分と機能			
15	総括	復習・まとめ				

授業科目 (科目ID)	生化学 22d110		担当教員 (実務経験)	山内 芳子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 歯科衛生士として生化学を学び、当該科目の教育を行う。		
対象年次・学期	1年 通年		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	生体における化学反応について理解する。					
到達目標	糖質、タンパク質、脂質の代謝、消化・吸収について述べるができる。					
テキスト・ 参考図書等	・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能2 栄養と代謝」(医歯薬出版)					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	①定期試験80% ②レポート7% ③小テスト7% ④出席点6%			
	レポート	7%				
	小テスト	7%				
	提出物	6%				
	その他	6%				
履修上の 留意事項	①基本的には講義スタイルで授業を進める。 ②必要に応じてレポートや小テストを行う。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	生体の構成要素	生体の構造、細胞の構造と機能			
	2	生体における化学反応	代謝の流れと酵素			
	3	生体に必要な栄養素の構造と性質①	糖質・脂質の構造			
	4	生体に必要な栄養素の構造と性質②	タンパク質の構造・ビタミンの性質			
	5	糖質の代謝	糖質の消化・吸収過程			
	6	脂質の代謝	脂質の消化・吸収過程			
	7	タンパク質の代謝	タンパク質の消化・吸収過程			
	8	唾液	唾液の成分やその働きについて			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						